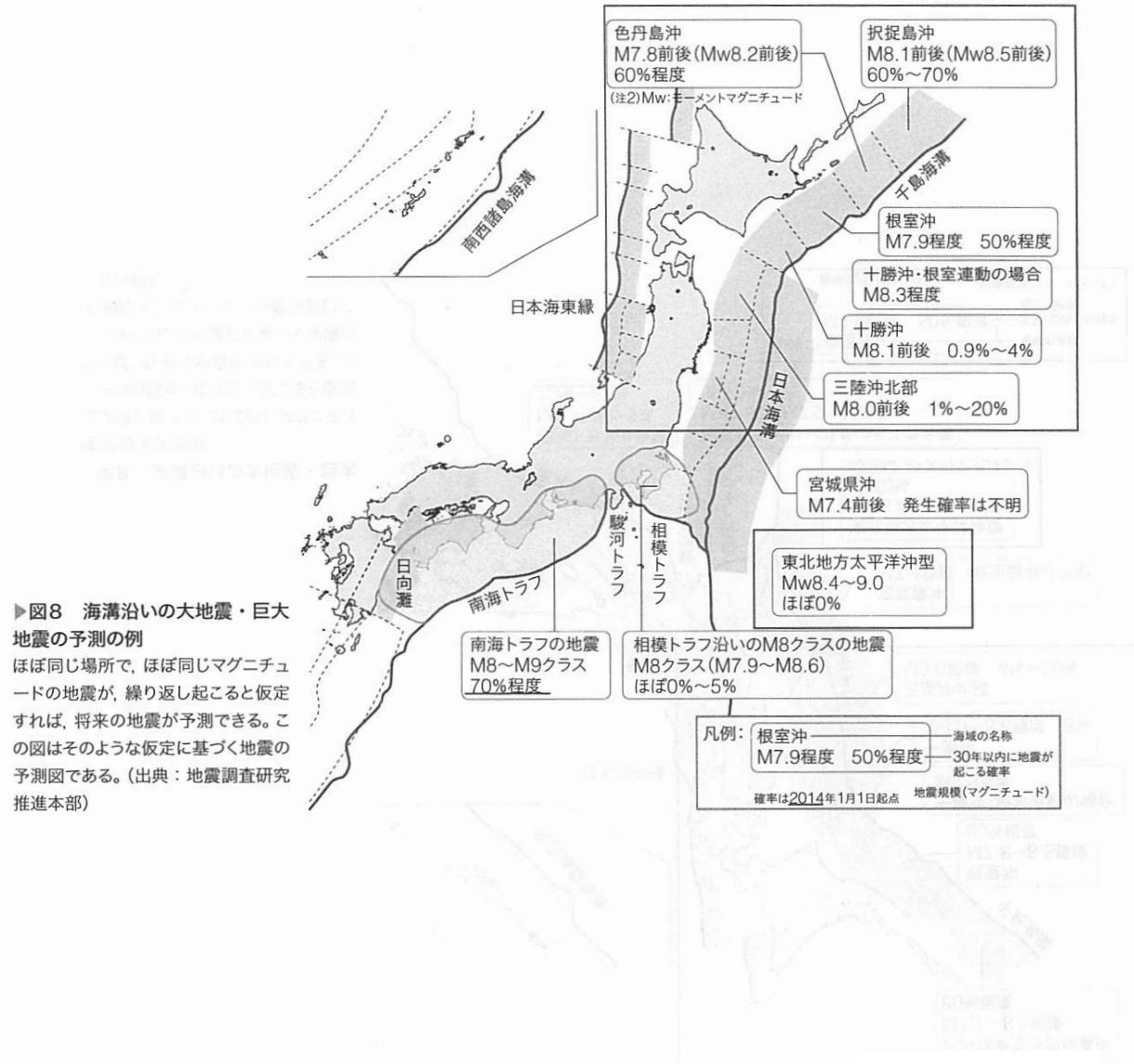


訂正箇所		原 文	訂 正 文																												
ページ	行																														
①~②		別紙の別紙 1 に記載	別紙の別紙 1 に記載																												
148	32~33	2017年9月現在、世界ジオパークに「洞爺湖有珠山」など <u>8</u> 地域が、日本ジオパークに <u>43</u> 地域が認定されている（前見返参照）。	2018年9月現在、世界ジオパークに「洞爺湖有珠山」など <u>9</u> 地域が、日本ジオパークに <u>44</u> 地域が認定されている（前見返参照）。																												
85	上中	<p>J 時代</p> <table border="1"> <tr> <td>23 億</td><td>20 億</td></tr> <tr> <td>月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9</td></tr> <tr> <td>7 月</td><td>月</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2 日</td><td>日</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>縞状鉄鉱層の形成</p> <p>真核生物の出現</p>	23 億	20 億	月	7月	8月	9	7 月	月			2 日	日			<p>J 時代</p> <table border="1"> <tr> <td>23 億</td><td>20 億</td></tr> <tr> <td>月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9</td></tr> <tr> <td>7 月</td><td>月</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2 日</td><td>日</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>縞状鉄鉱層の形成</p> <p>真核生物の出現</p>	23 億	20 億	月	7月	8月	9	7 月	月			2 日	日		
23 億	20 億																														
月	7月	8月	9																												
7 月	月																														
2 日	日																														
23 億	20 億																														
月	7月	8月	9																												
7 月	月																														
2 日	日																														

訂正箇所	
ページ	行
105	図8

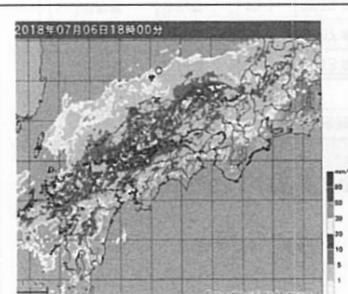
原 文



訂正箇所 ページ	訂 正 文 行									
105	<p>図8</p> <p>▶図8 海溝沿いの大地震・巨大地震の予測の例 ほぼ同じ場所で、ほぼ同じマグニチュードの地震が、繰り返し起こると仮定すれば、将来の地震が予測できる。この図はそのような仮定に基づく地震の予測図である。(出典: 地震調査研究推進本部)</p> <table border="1"> <tr> <td>色丹島沖及び択捉島沖 M7.7~8.5前後 60%程度</td> </tr> <tr> <td>根室沖 M7.8~8.5程度 80%程度</td> </tr> <tr> <td>十勝沖・根室連動の場合 M8.3程度</td> </tr> <tr> <td>十勝沖 M8.0~8.6程度 8%</td> </tr> <tr> <td>三陸沖北部 M8.0前後 4%~20%</td> </tr> <tr> <td>宮城県沖 M7.4前後 発生確率は不明</td> </tr> <tr> <td>東北地方太平洋沖型 Mw8.4~9.0 (注2)Mw:モーメントマグニチュード ほぼ0%</td> </tr> <tr> <td>南海トラフの地震 M8~M9クラス 70%~80%</td> </tr> <tr> <td>相模トラフ沿いのM8クラスの地震 M8クラス(M7.9~M8.6) ほぼ0%~5%</td> </tr> </table> <p>凡例: 根室沖 ————— 海域の名称 M7.9程度 50%程度 ————— 30年内に地震が起こる確率 確率は2018年1月1日起点 地震規模(マグニチュード)</p>	色丹島沖及び択捉島沖 M7.7~8.5前後 60%程度	根室沖 M7.8~8.5程度 80%程度	十勝沖・根室連動の場合 M8.3程度	十勝沖 M8.0~8.6程度 8%	三陸沖北部 M8.0前後 4%~20%	宮城県沖 M7.4前後 発生確率は不明	東北地方太平洋沖型 Mw8.4~9.0 (注2)Mw:モーメントマグニチュード ほぼ0%	南海トラフの地震 M8~M9クラス 70%~80%	相模トラフ沿いのM8クラスの地震 M8クラス(M7.9~M8.6) ほぼ0%~5%
色丹島沖及び択捉島沖 M7.7~8.5前後 60%程度										
根室沖 M7.8~8.5程度 80%程度										
十勝沖・根室連動の場合 M8.3程度										
十勝沖 M8.0~8.6程度 8%										
三陸沖北部 M8.0前後 4%~20%										
宮城県沖 M7.4前後 発生確率は不明										
東北地方太平洋沖型 Mw8.4~9.0 (注2)Mw:モーメントマグニチュード ほぼ0%										
南海トラフの地震 M8~M9クラス 70%~80%										
相模トラフ沿いのM8クラスの地震 M8クラス(M7.9~M8.6) ほぼ0%~5%										

訂正箇所		原 文	訂 正 文
ページ	行		
107	図 13	<p>▲図 13 日本のおもな活断層とM7以上の地震の震源</p>	<p>▲図 13 日本のおもな活断層とM7以上の地震の震源</p>
148	6	110 の活火山をもつ火山国でもある。	111 の活火山をもつ火山国でもある。
158	12～14	国内の 110 の活火山のうち 50 火山については、大学や自治体などの協力を得ながら 24 時間体制で監視している（2017 年 4 月現在）。	国内の 111 の活火山のうち 50 火山については、大学や自治体などの協力を得ながら 24 時間体制で監視している（2017 年 6 月現在）。
162	側注① 6～7	鉄道の運休などで山梨県では一時孤立状態となった。	鉄道の運休などで山梨県では県全体が一時孤立状態となった。

訂正箇所		原 文
ページ	行	
162	下メモ 図 39	<p>● 夏 蒸し暑い日が続くと熱中症による死亡などの暑さによる災害、曇りや雨の日が多い場合は、冷夏による災害(冷害)が発生する。積乱雲が発達すると雷や豪雨による災害が発生し、台風が接近・上陸</p> <p>豪雨による災害</p> <p>2014年夏、台風12号及び台風11号が相次いで接近するとともに、日本付近に前線が停滞し、暖かく湿った空気の流れ込みが継続したため、各地で豪雨が起きた(平成26年8月豪雨)。8月19日夜から20日未明にかけて、広島県広島市を中心に1時間に100mmを超える猛烈な雨が降り、広島市安佐南区・北区では大規模な土砂災害が発生。山を切り開いて造成された住宅地に土石流が流れ込み、死者74名、全壊家屋174棟という被害となった。雨雲の範囲は狭いものであったが、強い雨雲が次々と流入したことで災害が発生した。</p>

162 下メモ
図39

▲図39 平成30年7月豪雨
(2018年7月6日18時の1時間降水量)

この豪雨の7月5日から7日の総降水量を過去(1982年以降)と比較すると、四国地方のほか、全国の合計値でも過去最大を記録した。

●●● 夏 蒸し暑い日が続くと熱中症による死亡などの暑さによる災害、曇りや雨の日が多い場合は、冷夏による災害(冷害)が発生する。積乱雲が発達すると雷や豪雨による災害が発生し、台風が接近・上陸

豪雨による災害

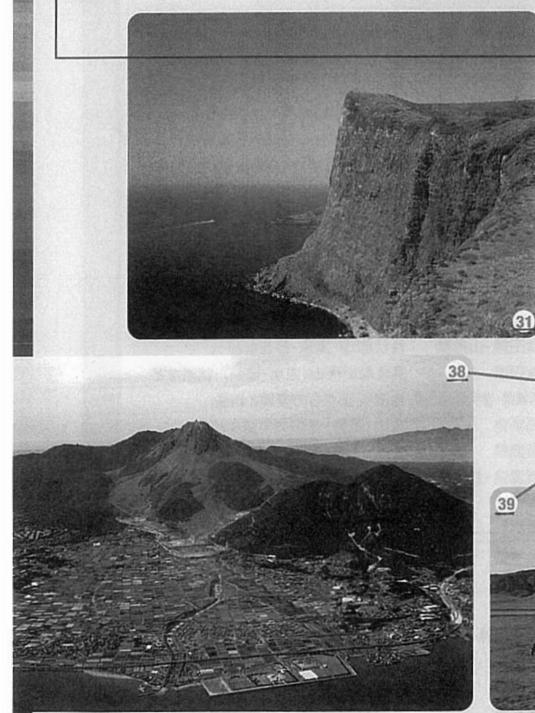
2018年夏、台風7号や梅雨前線の影響により、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨(平成30年7月豪雨)が起きた。特に7月5日から8日にかけては、非常に発達したオホーツク海高気圧と太平洋高気圧の間で梅雨前線が西日本付近に停滞し、そこに南の海上から多量の水蒸気を含む空気が流れ込み前線の活動がより活発化した。この豪雨は、多くの観測地点で48時間、72時間降水量が観測史上1位になるなど、広い範囲で長時間の大雨となったことが特徴である。降雨期間11日間で、土砂災害発生件数は、31道府県で1,700件以上、死者は220名以上、全壊家屋は6,300棟を超す被害になった。特に、広島県、岡山県の被害が甚大であった。

訂正箇所 ページ	行	原 文																																																																						
163	上メモ	<p>夏の記録的な暑さによる災害</p> <p>梅雨が明けると、小笠原気団(太平洋高気圧)に覆われる。地表付近では風が弱くなり、低地は蒸し暑い日が続き、熱中症に注意が必要となる。</p> <p>2007年の8月は、日本付近ではラニーニャ現象の影響で下降気流が発生し、地上から上空まで勢力の強い太平洋高気圧が形成された。暑い空気が滞留し、強い日差しと地形の影響によって、埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市では、8月16日に40.9°Cを観測し、1933年7月25日の山形市で観測した日本記録の40.8°Cを74年ぶりに更新した。表2の左は観測史上の最高気温の順位を示している。上位の観測点の多くは、暑い空気が滞留しやすい盆地にある。また、この記録は、気象庁が日陰で風通しのよい場所で観測した値なので、日射しがあったり、風通しが悪かったりするところでは、この値よりさらに高くなる場合がある。厚生労働省の調査によると、2007年は記録的な猛暑の影響で、熱中症により904人が死亡した。</p>																																																																						
	表2	<p>▼表2 日最高気温と日最低気温の観測史上の順位</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">最高気温の高い方から</th> <th colspan="3">最低気温の低い方から</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">順位</th> <th rowspan="2">都道府県</th> <th rowspan="2">観測所</th> <th colspan="2">観測値</th> <th rowspan="2">順位</th> <th rowspan="2">都道府県</th> <th rowspan="2">観測所</th> <th colspan="2">観測値</th> </tr> <tr> <th>°C</th> <th>起日</th> <th>°C</th> <th>起日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高知県</td> <td>江川崎</td> <td>41.0</td> <td>2013年8月12日</td> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>旭川</td> <td>-41.0</td> <td>1902年1月25日</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>埼玉県</td> <td>熊谷</td> <td>40.9</td> <td>2007年8月16日</td> <td>2</td> <td>北海道</td> <td>帯広</td> <td>-38.2</td> <td>1902年1月26日</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>岐阜県</td> <td>多治見</td> <td>40.9</td> <td>2007年8月16日</td> <td>3</td> <td>北海道</td> <td>江丹別</td> <td>-38.1</td> <td>1978年2月17日</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>山形県</td> <td>山形</td> <td>40.8</td> <td>1933年7月25日</td> <td>4</td> <td>静岡県</td> <td>富士山</td> <td>-38.0</td> <td>1981年2月27日</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>山梨県</td> <td>甲府</td> <td>40.7</td> <td>2013年8月10日</td> <td>5</td> <td>北海道</td> <td>歌登</td> <td>-37.9</td> <td>1978年2月17日</td> </tr> </tbody> </table>	最高気温の高い方から			最低気温の低い方から			順位	都道府県	観測所	観測値		順位	都道府県	観測所	観測値		°C	起日	°C	起日	1	高知県	江川崎	41.0	2013年8月12日	1	北海道	旭川	-41.0	1902年1月25日	2	埼玉県	熊谷	40.9	2007年8月16日	2	北海道	帯広	-38.2	1902年1月26日	3	岐阜県	多治見	40.9	2007年8月16日	3	北海道	江丹別	-38.1	1978年2月17日	4	山形県	山形	40.8	1933年7月25日	4	静岡県	富士山	-38.0	1981年2月27日	5	山梨県	甲府	40.7	2013年8月10日	5	北海道	歌登	-37.9	1978年2月17日
最高気温の高い方から			最低気温の低い方から																																																																					
順位	都道府県	観測所	観測値		順位	都道府県	観測所	観測値																																																																
			°C	起日				°C	起日																																																															
1	高知県	江川崎	41.0	2013年8月12日	1	北海道	旭川	-41.0	1902年1月25日																																																															
2	埼玉県	熊谷	40.9	2007年8月16日	2	北海道	帯広	-38.2	1902年1月26日																																																															
3	岐阜県	多治見	40.9	2007年8月16日	3	北海道	江丹別	-38.1	1978年2月17日																																																															
4	山形県	山形	40.8	1933年7月25日	4	静岡県	富士山	-38.0	1981年2月27日																																																															
5	山梨県	甲府	40.7	2013年8月10日	5	北海道	歌登	-37.9	1978年2月17日																																																															

訂正箇所 ページ	行	訂 正 文																																																																						
163	上メモ	<p style="text-align: right;">メモ</p> <h3>夏の記録的な暑さによる災害</h3> <p>梅雨が明けると、小笠原気団(太平洋高気圧)に覆われる。地表付近では風が弱くなり、低地は蒸し暑い日が続き、熱中症に注意が必要となる。</p> <p>2018年夏、7月中旬以降日本付近で太平洋高気圧の勢力が著しく強い状態が続き、上層での高気圧の張り出しが強かったため、暑い空気が滞留し、強い日差しと地形の影響によって気温が上昇した。東日本の月平均気温は平年差 + 2.8 °C で、1946年の統計開始以降7月として最も高くなった。7月23日には埼玉県の熊谷市で歴代全国1位を更新する日最高気温 41.1 °C を観測。表2の左は観測史上の最高気温の順位を示している。また、この記録は、気象庁が日陰で風通しのよい場所で観測した値なので、日射しがあったり、風通しが悪かったりするところでは、この値よりさらに高くなる場合がある。7月の熱中症による救急搬送人員数は54,220人、死亡者数は133人となり、2008年の調査開始以降最多となった(消防庁調べ)。</p>																																																																						
	表2	<p>▼表2 日最高気温と日最低気温の観測史上の順位</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">最高気温の高い方から</th> <th colspan="3">最低気温の低い方から</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">順位</th> <th rowspan="2">都道府県</th> <th rowspan="2">観測所</th> <th colspan="2">観測値</th> <th rowspan="2">順位</th> <th rowspan="2">都道府県</th> <th rowspan="2">観測所</th> <th colspan="2">観測値</th> </tr> <tr> <th>°C</th> <th>起日</th> <th>°C</th> <th>起日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>埼玉県</td> <td>熊谷</td> <td>41.1</td> <td>2018年7月23日</td> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>旭川</td> <td>-41.0</td> <td>1902年1月25日</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>岐阜県</td> <td>美濃</td> <td>41.0</td> <td>2018年8月8日</td> <td>2</td> <td>北海道</td> <td>帯広</td> <td>-38.2</td> <td>1902年1月26日</td> </tr> <tr> <td>//</td> <td>岐阜県</td> <td>金山</td> <td>41.0</td> <td>2018年8月6日</td> <td>3</td> <td>北海道</td> <td>江丹別</td> <td>-38.1</td> <td>1978年2月17日</td> </tr> <tr> <td>//</td> <td>高知県</td> <td>江川崎</td> <td>41.0</td> <td>2013年8月12日</td> <td>4</td> <td>静岡県</td> <td>富士山</td> <td>-38.0</td> <td>1981年2月27日</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>岐阜県</td> <td>多治見</td> <td>40.9</td> <td>2007年8月16日</td> <td>5</td> <td>北海道</td> <td>歌登</td> <td>-37.9</td> <td>1978年2月17日</td> </tr> </tbody> </table>	最高気温の高い方から			最低気温の低い方から			順位	都道府県	観測所	観測値		順位	都道府県	観測所	観測値		°C	起日	°C	起日	1	埼玉県	熊谷	41.1	2018年7月23日	1	北海道	旭川	-41.0	1902年1月25日	2	岐阜県	美濃	41.0	2018年8月8日	2	北海道	帯広	-38.2	1902年1月26日	//	岐阜県	金山	41.0	2018年8月6日	3	北海道	江丹別	-38.1	1978年2月17日	//	高知県	江川崎	41.0	2013年8月12日	4	静岡県	富士山	-38.0	1981年2月27日	5	岐阜県	多治見	40.9	2007年8月16日	5	北海道	歌登	-37.9	1978年2月17日
最高気温の高い方から			最低気温の低い方から																																																																					
順位	都道府県	観測所	観測値		順位	都道府県	観測所	観測値																																																																
			°C	起日				°C	起日																																																															
1	埼玉県	熊谷	41.1	2018年7月23日	1	北海道	旭川	-41.0	1902年1月25日																																																															
2	岐阜県	美濃	41.0	2018年8月8日	2	北海道	帯広	-38.2	1902年1月26日																																																															
//	岐阜県	金山	41.0	2018年8月6日	3	北海道	江丹別	-38.1	1978年2月17日																																																															
//	高知県	江川崎	41.0	2013年8月12日	4	静岡県	富士山	-38.0	1981年2月27日																																																															
5	岐阜県	多治見	40.9	2007年8月16日	5	北海道	歌登	-37.9	1978年2月17日																																																															

訂正箇所 ページ		原 文	訂 正 文																																																																																																													
行																																																																																																																
183	11	・火山噴火……大規模噴火による降灰の影響で数年間の気温低下も起こる。	・火山噴火……大規模噴火による噴煙から生じた硫酸の液滴が成層圏に留まり、数年間の気温低下も起こる。																																																																																																													
(4)	下表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th><th>水星</th><th>金星</th><th>地球</th><th>火星</th><th>木星</th><th>土星</th><th>天王星</th><th>海王星</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>赤道半径(km)</td><td>2440</td><td>6052</td><td>6378</td><td>3396</td><td>71492</td><td>60268</td><td>25559</td><td>24764</td></tr> <tr> <td>質量(10^{24}kg)</td><td>0.3302</td><td>4.869</td><td>5.974</td><td>0.6416</td><td>1899</td><td>568.5</td><td>86.86</td><td>102.5</td></tr> <tr> <td>平均の密度(g/cm³)</td><td>5.43</td><td>5.24</td><td>5.52</td><td>3.93</td><td>1.33</td><td>0.69</td><td>1.27</td><td>1.64</td></tr> <tr> <td>自転周期(日)</td><td>58.65</td><td>243.02</td><td>0.9973</td><td>1.026</td><td>0.414</td><td>0.444</td><td>0.718</td><td>0.671</td></tr> <tr> <td>衛星数</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>65以上</td><td>65以上</td><td>27以上</td><td>13以上</td></tr> </tbody> </table>	名称	水星	金星	地球	火星	木星	土星	天王星	海王星	赤道半径(km)	2440	6052	6378	3396	71492	60268	25559	24764	質量(10^{24} kg)	0.3302	4.869	5.974	0.6416	1899	568.5	86.86	102.5	平均の密度(g/cm ³)	5.43	5.24	5.52	3.93	1.33	0.69	1.27	1.64	自転周期(日)	58.65	243.02	0.9973	1.026	0.414	0.444	0.718	0.671	衛星数	0	0	1	2	65以上	65以上	27以上	13以上	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th><th>水星</th><th>金星</th><th>地球</th><th>火星</th><th>木星</th><th>土星</th><th>天王星</th><th>海王星</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>赤道半径(km)</td><td>2440</td><td>6052</td><td>6378</td><td>3396</td><td>71492</td><td>60268</td><td>25559</td><td>24764</td></tr> <tr> <td>質量(10^{24}kg)</td><td>0.3301</td><td>4.867</td><td>5.972</td><td>0.6414</td><td>1898</td><td>568.3</td><td>86.83</td><td>102.4</td></tr> <tr> <td>平均の密度(g/cm³)</td><td>5.43</td><td>5.24</td><td>5.51</td><td>3.93</td><td>1.33</td><td>0.69</td><td>1.27</td><td>1.64</td></tr> <tr> <td>自転周期(日)</td><td>58.65</td><td>243.02</td><td>0.9973</td><td>1.026</td><td>0.414</td><td>0.444</td><td>0.718</td><td>0.671</td></tr> <tr> <td>衛星数</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>79以上</td><td>65以上</td><td>27以上</td><td>14以上</td></tr> </tbody> </table>	名称	水星	金星	地球	火星	木星	土星	天王星	海王星	赤道半径(km)	2440	6052	6378	3396	71492	60268	25559	24764	質量(10^{24} kg)	0.3301	4.867	5.972	0.6414	1898	568.3	86.83	102.4	平均の密度(g/cm ³)	5.43	5.24	5.51	3.93	1.33	0.69	1.27	1.64	自転周期(日)	58.65	243.02	0.9973	1.026	0.414	0.444	0.718	0.671	衛星数	0	0	1	2	79以上	65以上	27以上	14以上	
名称	水星	金星	地球	火星	木星	土星	天王星	海王星																																																																																																								
赤道半径(km)	2440	6052	6378	3396	71492	60268	25559	24764																																																																																																								
質量(10^{24} kg)	0.3302	4.869	5.974	0.6416	1899	568.5	86.86	102.5																																																																																																								
平均の密度(g/cm ³)	5.43	5.24	5.52	3.93	1.33	0.69	1.27	1.64																																																																																																								
自転周期(日)	58.65	243.02	0.9973	1.026	0.414	0.444	0.718	0.671																																																																																																								
衛星数	0	0	1	2	65以上	65以上	27以上	13以上																																																																																																								
名称	水星	金星	地球	火星	木星	土星	天王星	海王星																																																																																																								
赤道半径(km)	2440	6052	6378	3396	71492	60268	25559	24764																																																																																																								
質量(10^{24} kg)	0.3301	4.867	5.972	0.6414	1898	568.3	86.83	102.4																																																																																																								
平均の密度(g/cm ³)	5.43	5.24	5.51	3.93	1.33	0.69	1.27	1.64																																																																																																								
自転周期(日)	58.65	243.02	0.9973	1.026	0.414	0.444	0.718	0.671																																																																																																								
衛星数	0	0	1	2	79以上	65以上	27以上	14以上																																																																																																								
(2)	⑩	飛鳥	飛島																																																																																																													

西南日本ジオパーク一覧		
名称	都道府県	見どころ
糸魚川*	新潟県	ヒスイ・フォッサマグナなど
立山黒部 白山手取川	富山県	38億年前・高低差・水循環など
恐竜渓谷ふくい勝山	石川県	水の旅(生まれ・育ち・活かす)
南アルプス	福井県	恐竜・火山・湧水など
南紀熊野	長野県	中央構造線・地震災害・埋没林
悪戻*	和歌山県	プレートの沈み込み・熊野信仰
山陰海岸	島根県	黒曜石・文化交流・植物多様性
Mine秋吉台	京都府・兵庫県・鳥取県	長い海岸線と地形・海産物など
室戸*	山口県	カルスト地形・3億5千万年前の記憶
四国西予	高知県	プレートテクトニクス・植物群落など
おおいた姫島	愛媛県	多様な地形・黒瀬川構造体など
おおいた豊後大野	大分県	黒曜石・盆踊り・アサギマダラ
島原半島*	大分県	付加体・火山・滝・石橋・仏像
阿蘇*	長崎県	火山と人との共生・火山災害
天草	熊本県	カルデラ・水源・草原景観など
霧島	熊本県	ケスター地形・多島海・イルカなど
桜島	宮崎県・鹿児島県	火山・カルデラ・植生・神話など
さくらじま 蘭島	鹿児島県	活火山との共生・カルデラなど
三島村・鬼界カルデラ	鹿児島県	カルデラ地形・面積が世界一小さい

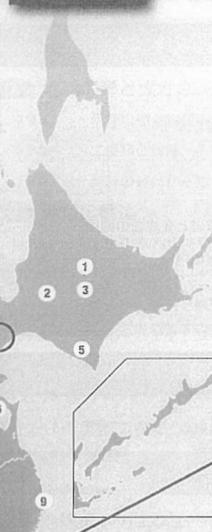


ジオパーク

大地の公園



大地の公園



ジオパーク(大地の公園)へようこそ!

日本には、将来に残しておくべき自然遺産が多くあります。地球科学的に重要な自然遺産を含む自然に親しむための公園をジオパークといい、自然遺産と文化遺産を結びつけて保全・教育・ジオツーリズムに利用しながら地域の経済発展を目指しています。

2017年9月現在、日本では43の「日本ジオパーク」が認定され、そのうち8つは世界ジオパークに認定されています(表の①で表示)。それぞれのジオパークに地域独特の見どころがあります。

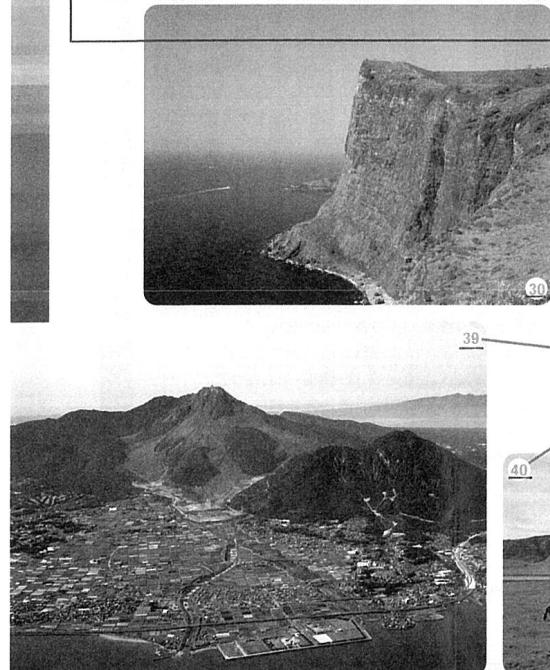
皆さんもジオパークに出かけて、自分の住む大地の成り立ちを知り、自然と文化・歴史の結びつきに思いをはせてみましょう。



東北日本ジオパーク一覧

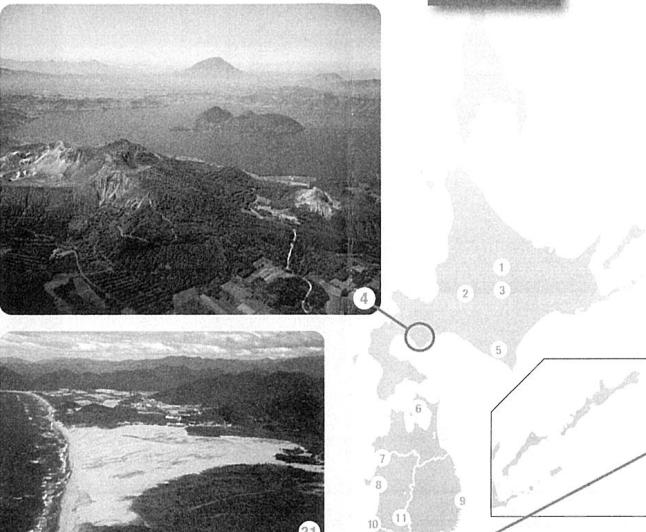
名称	都道府県	見どころ
①白瀧	北海道	黒曜石・氷期の森の生き物など
②三笠	北海道	アンモナイト・炭鉱跡・炭岩層など
③とかち鹿追	北海道	凍れ(凍結)がつくった地形や生態系
④洞爺湖有珠山*	北海道	火山地形・温泉・貝塚等の遺跡など
⑤アポイ岳*	北海道	かんらん岩・高山植物等・奇岩など
⑥下北	青森県	恐山・仏ヶ浦・本州北限の生態系
⑦八峰白神	秋田県・青森県	白神山地・駿河・油田・温泉など
⑧男鹿半島・大潟	秋田県	グリーンタフ・湧水群・米・文化財
⑨三陸	青森県・岩手県・宮城県	さまざまな景観・震災遭禍・防災教育など
⑩鳥海山・飛鳥	秋田県・山形県	柱状節理・湧水・砂丘など
⑪ゆざわ	秋田県	見えない火山(温泉・地熱)・銘酒など
⑫栗駒山麗	宮城県・岩手県・秋田県	地震災害からの復興と再生
⑯磐梯山	福島県	火山・遺跡・信仰の史跡など
⑰佐渡	新潟県	金山・朱鷺・棚田・千石船など
⑯苗場山麓	新潟県・長野県	雪・火山・希少植物群落・雪国文化
⑯浅間山北麓	群馬県	火山災害からの復興・溶岩樹型など
⑯下仁田	群馬県	日本列島形成過程の証拠・ネギなど
⑯筑波山北	茨城県	5億年前～現在の地層・文化施設など
⑯筑波山地域	茨城県	巨岩・奇岩・筑波山神社など
⑯秩父	埼玉県	地形(山地・丘陵・段丘)・文化遺産
⑯越子	千葉県	海岸地形・海洋性気候・水産物資源
⑯猪俣	神奈川県	火山・温泉・動植物・文化遺産など
⑯伊豆半島	静岡県	火山島の本州への衝突・湧水など
⑯伊豆大島	東京都	玄武岩火山・植物遷移・地層切断面

名称	都道府県	見どころ
立山黒部 アルプス	富山県	38億年前・高低差・水循環など
白山手取川 流域	石川県	水の旅(生まれ・育ち・活かす)
恐竜渓谷ふくい勝山 アーチ	福井県	恐竜・火山・湧水など
南アルプス 南紀熊野 海岸	長野県 和歌山県	中央構造線・地震災害・埋没林 プレートの沈み込み・熊野信仰
島根*	島根県	黒曜石・文化交流・植物多様性
山陰海岸*	京都府・兵庫県・鳥取県	長い海岸線と地形・海産物など
島根半島・宍道湖中海	島根県	断層・玄武岩溶岩流・流紋岩など
Mine秋吉台	山口県	カルスト地形・3億5千万年前の記憶
萩	山口県	付加体・ホルンフェルス・火山群など
室戸*	高知県	プレートテクトニクス・植物群落など
四国西予	愛媛県	多様な地形・黒瀬川構造体など
おおいた姫島	大分県	黒曜石・盆踊り・アサギマドラ
おおいた豊後大野	大分県	付加体・火山・滝・石橋・仏像
豊原半島*	長崎県	火山と人の共生・火山災害
阿蘇*	熊本県	カルデラ・水源・草原景観など
天草	熊本県	ケスタ地形・多島海・イルカなど
霧島	宮崎県・鹿児島県	火山・カルデラ・植生・神話など
桜島・錦江湾	鹿児島県	活火山との共生・カルデラなど
三島村・鬼界カルデラ	鹿児島県	カルデラ地形・面積が世界一小さい



ジオパーク

大地の公園



ジオパーク(大地の公園)へようこそ!

日本には、将来に残しておくべき自然遺産が多くあります。地球科学的に重要な自然遺産を含む自然に親しむための公園をジオパークといい、自然遺産と文化遺産を結びつけて保全・教育・ジオツーリズムに利用しながら地域の経済発展を目指しています。

2018年9月現在、日本では44の「日本ジオパーク」が認定され、そのうち9つは世界ジオパークに認定されています(表の*で表示)。それぞれのジオパークに地域独特の見どころがあります。

皆さんもジオパークに出かけて、自分の住む大地の成り立ちを知り、自然と文化・歴史の結びつきに思いをはせてみましょう。



東北日本ジオパーク一覧

名称	都道府県	見どころ
1 白道	北海道	黒曜石・氷期の森の生き物など
2 三笠	北海道	アンモナイト・炭鉱跡・石炭層など
3 とかち鹿追	北海道	凍れ(凍結)がついた地形や生態系
4 洞爺湖有珠山*	北海道	火山地形・温泉・貝塚等の遺跡など
5 アポイ岳*	北海道	かんらん岩・高山植物等・奇岩など
6 下北	青森県	忍山・仏ヶ浦・本州北限の生態系
7 八峰白神	秋田県・青森県	白神山地・鉱山・油田・温泉など
8 男鹿半島・大潟	秋田県	グリーンタフ・湧水群・米・文化財
9 三陸	青森県・岩手県・宮城県	さまざまな景観・震災遭禍・防災教育など
10 鳥海山・飛島	秋田県	柱状節理・湧水・砂丘など
11 ゆざわ	秋田県	見えない火山(温泉・地熱)・銘酒など
12 霧駒山麓	宮城県・岩手県・秋田県	地震災害からの復興と再生
13 磐梯山	福島県	火山・遺跡・信仰の史跡など
14 佐渡	新潟県	金山・朱鷺・棚田・千石船など
15 苗場山麓	新潟県・長野県	雪・火山・希少植物群落・雪国文化
16 浅間山北麓	群馬県	火山災害からの復興・溶岩樹型など
17 下仁田	群馬県	日本列島形成過程の証拠・ナギなど
18 筑波山地域	茨城県	巨岩・奇岩・筑波山神社など
19 秩父	埼玉県	地形(山地・丘陵・段丘)・文化遺産
20 銚子	千葉県	海岸地形・海洋性気候・水産物資源
21 韶根	神奈川県	火山・温泉・動植物・文化遺産など
22 伊豆半島*	静岡県	火山島の本州への衝突・湧水など
23 伊豆大島	東京都	玄武岩火山・植物遷移・地層切断面
24 烏賀川*	新潟県	ヒスイ・フォッサマグナなど